

平城京左京七条一坊十六坪
発掘調査（平城京第254次調査）現地説明会資料

1995年2月25日
奈良国立文化財研究所 平城宮跡発掘調査部

1 はじめに

この調査は、平城京左京七条一坊十六坪の大部分とその周囲約11,000㎡を、昨年5月から本年3月まで5次に分けて調査する予定の第4次である。当調査に先立ち、東一坊大路推定位置で東西42m、南北5m（第251次）、十六坪の東北4分の1と六条大路（約3900㎡、第252次）、十六坪の東南4分の1と七条条間北小路（約3600㎡、第253次）の諸調査を行った。当調査区は第253次調査区の西に続き、面積約3700㎡である。調査は1月9日から始まり、現在継続中である。

2 遺構

検出した奈良時代の遺構は、十六坪内では掘立柱建物20棟・塀8条・井戸1基・溝1条・土坑多数、条坊遺構として七条条間北小路とこれに伴う祭祀土坑、東一坊坊間東小路とこれに伴う土器埋納遺構などで、252・253次調査区に比して数が多い。十六坪内の遺構は、重複関係、方位の振れ、出土遺物などにに基づき、A～Dの4期に区分できる。A・B期が奈良時代前半、C・D期が奈良時代後半である。

条坊遺構

七条条間北小路 66m分を検出した。幅は南北両側溝心々距離で約7m、道路心は六条大路心から南に約136m（460尺）離れる。北側溝は東一坊坊間東小路を横切ってさらに西に続く。幅1.8～2.5m、深さ35～60cmで、十六坪の西端近くの底に長さ5.2m、幅1.4m、深さ40cmの土坑がある。南側溝は東一坊坊間東小路東側溝の所で止まり西に延びない。幅1.4～2m、深さ25～40cmで、東から25mの所に橋脚2本の橋（幅1.8m）が掛かる。十五坪への入口である。十五坪の西端近くの底に長さ5.5m、深さ45cm以上の祭祀土坑があり、馬の頭部3点（歯のみ残存）、脚部などの骨、人面墨書土器1点（石で割った可能性あり）、土師器甕、須恵器壺などが埋められていた。祭祀土坑の年代は奈良時代前半である。

東一坊坊間東小路 10m分を検出した。西側溝西肩は調査区外である。幅は東西両側溝心々距離で約7mに復原でき、道路心は東一坊大路心から西に135m離れる。東側溝は幅1.5～2m、深さ25～30cmで、七条条間北小路の路心のやや南に、橋脚4本の橋（幅1.9m）が掛かる。西側溝は東肩のみを検出した。七条条間北小路との交差点の路面上に土器埋納遺構がある。土坑内に高さ30cmの甕を寝かせて埋納したもので、252次調査では六条大路上で1基、253次調査でも東一坊大路と七条条間北小路との交差点近くで2基検出している。

十六坪内の遺構

A期 遺構の方位が北で西にやや振れる。十六坪の中央に南北塀2があり、坪の南半を東西に二分する。坪の北半も二分するかどうかは255次調査で確認の予定である。この塀は七条条間北小路北側溝のすぐそばから始まり、十六坪の南辺には築地

が無かったようである。以後、奈良時代を通じて坪の東半は遺構が疎、西半は遺構が密である。東半の建物1は253次調査で一部を検出していたが、東庇付南北棟と判明した。西半には、塀2寄りの所に南北棟建物3棟、離れた所に南北棟建物1棟がある。建物7と13は両側柱筋を揃え、建物7と28は北妻を揃える。建物13・28は総柱建物で、倉庫であろうか。建物28の周囲には空閑地が広がる。

B期 A期の建物配置に近い。遺構の方位が北で東に振れるものが多い。塀2は存続する。塀2寄りの所に南北棟建物9・14がある。建物9は建物7を同規模で2間北へずらしたもの。建物14は建物13の位置を踏襲する。調査区西北部には東妻柱筋を揃える東西棟建物24・25がある。両者の西側に南北溝29がある。建物9の西側、建物24の南側には空閑地が広がる。建物25内の土坑群は甕をすえたものか。

C期 大きく様相が変化する。B期までの南北塀2の位置を踏襲して塀3があるが、柱位置を半間ずらし、南から12間分しかない。遺構の方位が北で東に振れるものが多い。塀3の北端の柱に接して南北棟建物4が建つ。塀3の南から6本目の柱に取り付く東西塀8があり、調査区西端に至る。塀8の南側3m（10尺）には、坪の四等分線を中心とする東西棟建物22がある。塀8の北側には東西棟建物19、南北棟両庇建物27、南北塀31がある。建物4・19・27に囲まれた内側は空閑地である。建物19の西妻は坪の四等分線の位置にあり、東妻は建物6の西側柱筋と建物27の東底筋の中央にくる。建物19の北側柱は建物4の南妻と筋を揃える。南北塀31は、東西塀8の3m（10尺）北から発し、建物27の西庇の西7.4m（25尺）にある。

D期 C期の東西棟建物19を同位置で建て替えた建物20を中心として、方位の振れが無い遺構群を整然と配置する。建物20の東南側には、建物20の棟通りの14.6m（約50尺）南を棟通りとする東西棟建物16がある。建物16の西から2本目の柱から北へ南北塀17が伸びる。建物20の東妻から17.8m（60尺）には南北塀5があり、小規模な東西棟建物15の東妻に取り付く。建物15の東妻の4.5m（15尺）東には目隠し塀6、建物15の南側柱の6m（20尺）南にも目隠し塀12がある。建物20の西側には、建物20の東妻から30m（100尺）の位置を東側柱とする南北棟総柱建物32・33が建つ。両者は柱筋を揃え、約3m（10尺）離れる。建物32の南方には、南北棟の総柱ないし東庇付きと推定できる建物30がある。その南妻は七条条間北小路北側溝と3m（10尺）離れる。建物33の北には建物34がある。建物34の西端は建物33の東側と筋を揃え、9m（30尺）離れる。建物20と34の間には、東西塀26がある。

その他の遺構 建物7・9の西に接して井戸11がある。造り替えがあり、新しい時期には、直径80cm、長さ180cm以上の大木を半裁し内側をくり抜いた材を井戸枠とする。井戸の廃絶は奈良時代末である。建物20より南側には土器片を多く出土する不整形の土坑多数がある。遺構の切合い関係から、土坑36はA期以前、37・38はB期以前、41はD期以後、43はB期以後である。40・41の埋土には炭化物が多く含まれ、火災後の廃棄物を捨てた可能性がある。以上の遺構は今後出土遺物の整理をまわって、時期を決定したい。

十五坪内の遺構

調査区西半に溝状の大土坑44がある。土器多数・青銅製責（せめ）金具が出土した。また東半の道路側溝際に建物45・46がある。

3 遺物

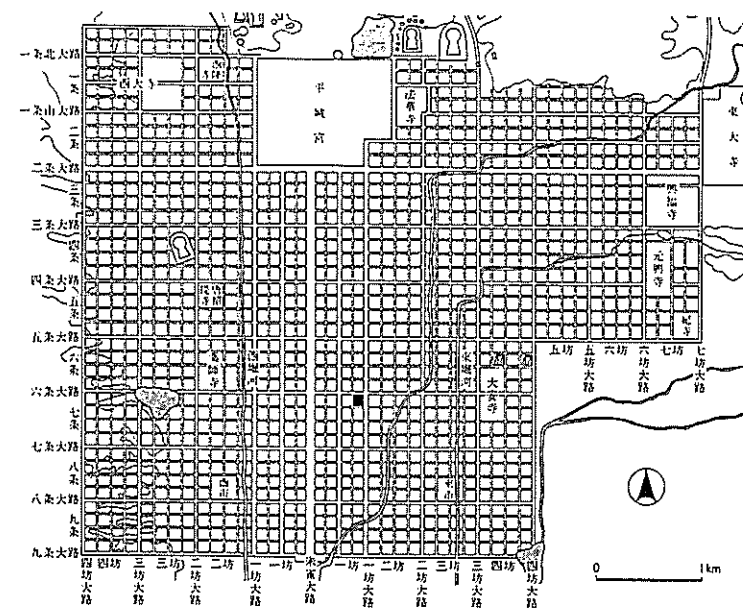
土器・土製品・瓦類・石器・金属器・獣骨がある。土器では、建物20の柱抜取り痕跡からの台付円形硯など硯数点、小路北側溝からの土馬3点などがある。小路南側溝内祭祀土坑からはまとめて出土した馬の頭部3点、脚部などの骨、人面墨書土器1点、土師器甕、須恵器壺は特筆できる。軒瓦は小土坑からの6710Aなどで数は少ない。東一坊坊間東小路路面上の七条条間北小路北側溝の埋土からまとめて出土した。金属器には土坑44からの貴金具1点がある。石器には縄文時代晩期の石鏃1点、弥生時代の石鏃1点がある。弥生時代の遺物は252・253次調査区でも少量出土しており、下層に弥生時代以前の遺構があることを伺わせる。

4 まとめ

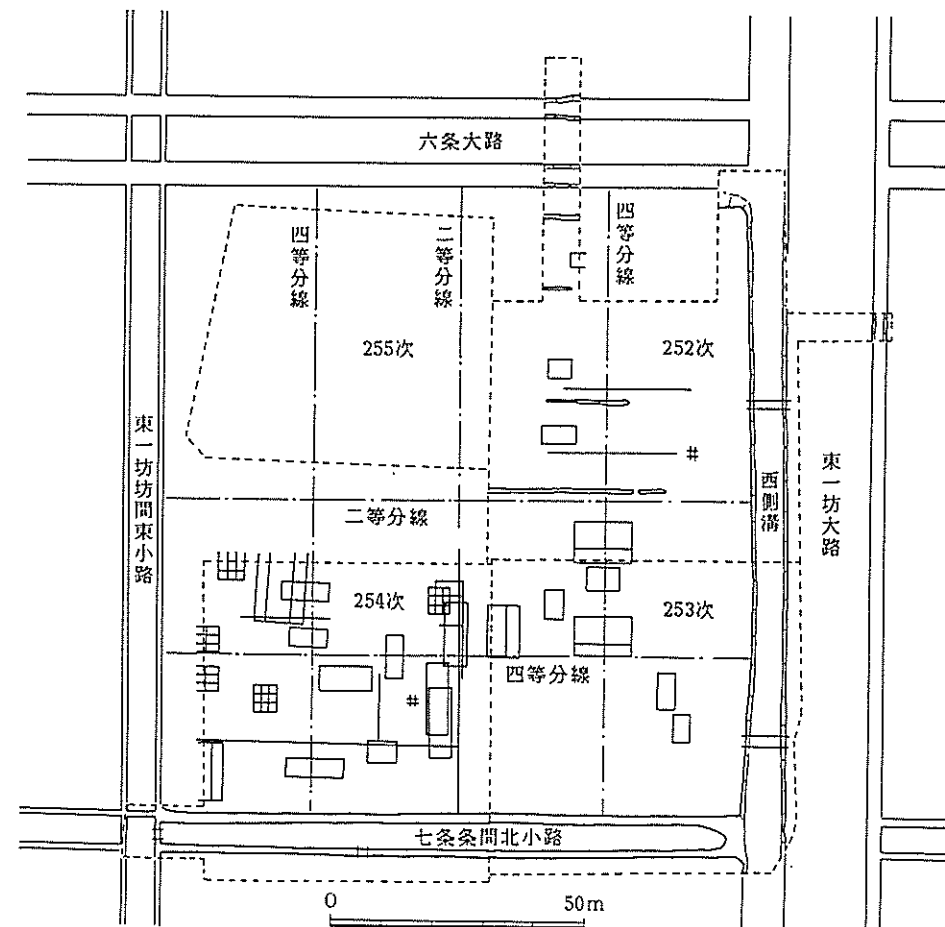
①、条坊道路上の祭祀遺構に注目したい。七条条間北小路南側溝中の祭祀土坑は、側溝に流水が無い時に、溝底に穴を穿ち、切断した馬の頭部・脚部などを、人面土器などと共に納め埋めたものである。たんに側溝に馬の死体を捨てたのではない。長岡京でも条坊道路の交差点の土坑に、馬を人面土器・鉄鏃・鳴筒などとともに埋めた例がある。崇り神の怒りを鎮めるために、犠牲として馬や牛を殺して供え、残った頭・脚を埋める慣行の存在が推定されているが、本例もそれに相当する可能性がある。また、一六坪を囲む条坊道路上では4ヶ所に土器埋納遺構がある。宅地内や建物の入口の土器埋納は、胞衣（えな＝胎盤）の埋納と考えられているが、道路上の例の性格については今後の検討を要する。

②、252・253次調査と当調査を合わせて、平城京左京七条一坊一六坪の四分の三の様相が明かとなった。奈良時代を通じて坪の南半が敷地としては一体であり、かつ東西に分けて用いていたと考える。今回検出した南北塀2は、一見、坪の南半を明瞭に二分するように見えるが、南から2間目が広く出入口とみられ、また従来、宅地割施設には道路か溝、宅地内区画施設には塀を用いる傾向が指摘されてきたから、塀2を宅地割施設と断定はできない。C・D期には坪の東西二等分線をまたぐ遺構があり、南半の一体性が強まるが、宅地内区画施設として塀2の位置を踏襲した塀3が残り、その東西で遺構の配置や密度が異なることから、東半（おもて）と西半（日常生活を賅う空間）を使い分ける意識が残ったとみられる。坪の東半の252次調査区では、坪を南北に二分する位置に東西溝があり、坪の東北部をさらに南北に三分する位置にも溝があり、三つの小区画に建物が各1棟ある。こうした東半部の状況から、坪の南半と北半が別の敷地ないし別の用途の区画であった可能性が強いと考えるが、坪の西半部でも同様であるか、今後の西北部の調査（255次）成果によって検証したい。

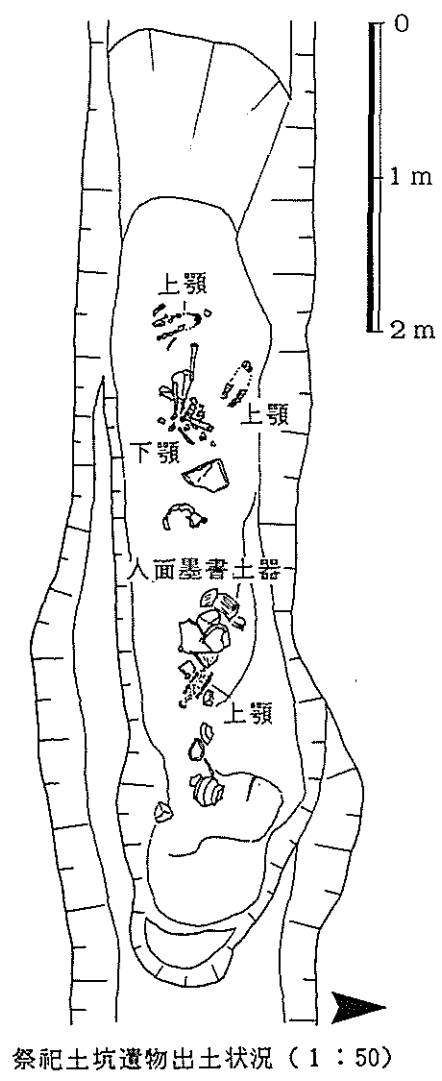
十六坪の性格はどうか。建物配置は、東南部や西南部D期に若干整然とした様相があるものの、全体的には雑然としている。252・253次調査区では生産関連遺物の出土から工房の存在を推定したが、邸宅の可能性も否定はできない。平城京における宅地別給基準は不明であるが、藤原京のものを参考にすれば、二分の一町規模なら中級官人、一町規模なら下級貴族の宅地となる。この問題についても255次調査の進展を待って再検討したい。



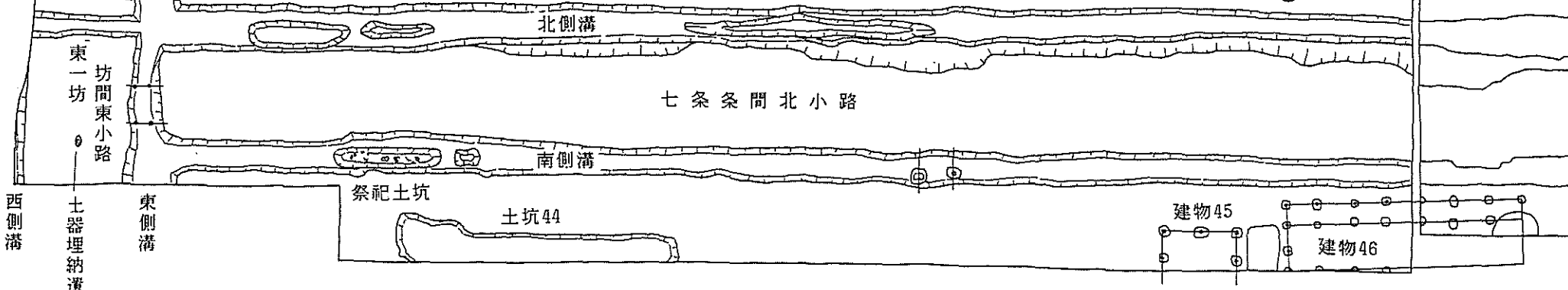
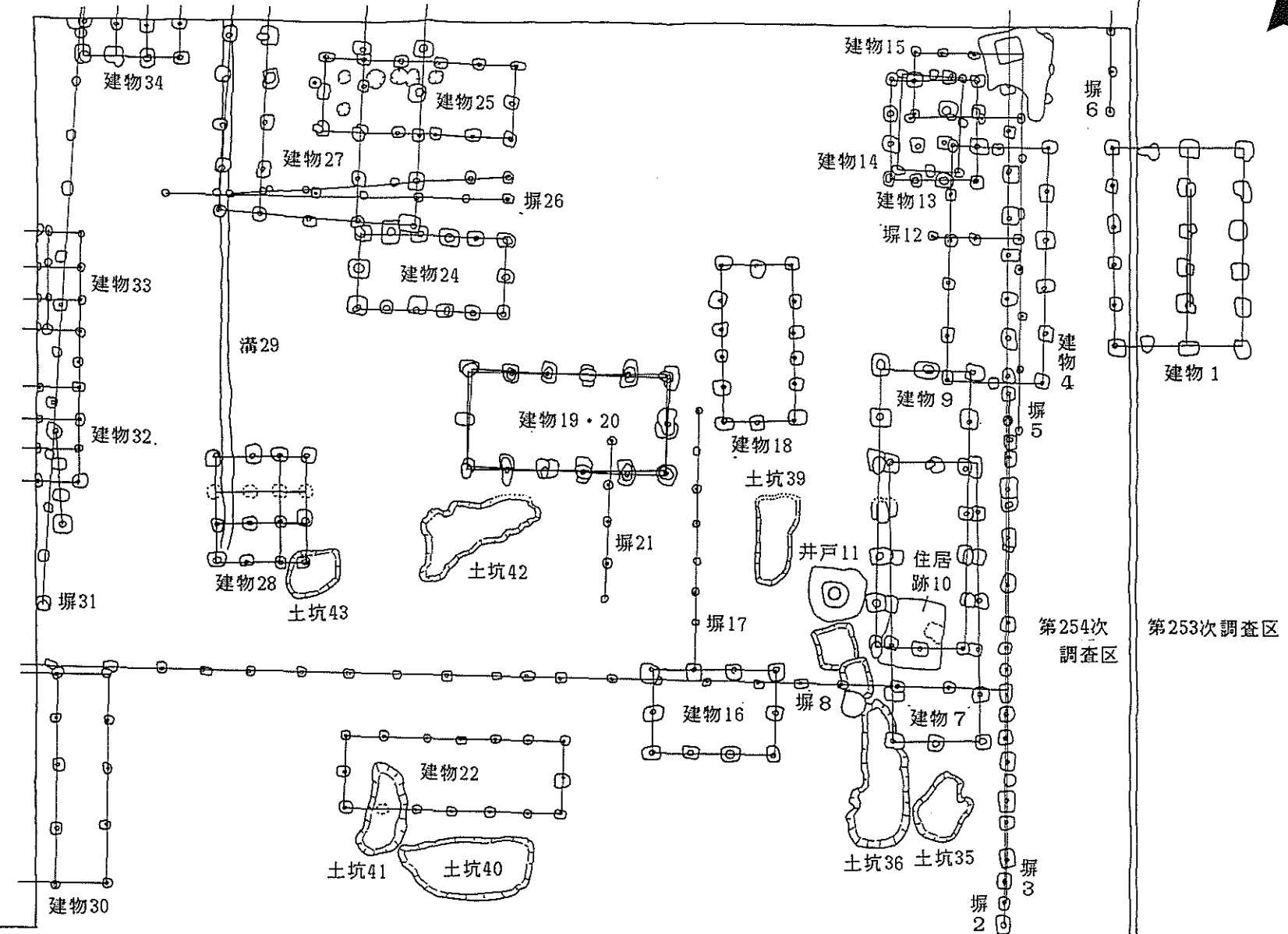
平城京左京七条一坊十六坪位置図



平城京左京七条一坊十六坪調査位置図 (1:1500)



祭祀土坑遺物出土狀況 (1 : 50)



平城京第254次調査遺構図 (1 : 300)

